

バイオマス取組事例概要

(農村振興局長賞)

東北

- 応募主体 有限会社新庄最上有機農業者協会
- 都道府県・市町村 山形県鮎川村
- 取組分野 堆肥化、BDF等燃料

取組概要

食品残渣、製材所残材から堆肥製造。廃食用油からのBDF製造。自家消費。

山形県、(有)新庄最上有機農業者協会は2001年、農薬や化学肥料に頼らない地域循環型農業を推進するために鮎川村の農家を中心として設立された農業法人である。

県内の食品加工場（主に缶詰工場）から搬入される食品残渣(6,000t/年)や汚泥、製材所残材(木くず)(4,000t/年)から堆肥を製造して、自ら使用するほか、一般農家へも販売している。堆肥化の際に出た水は緩速ろ過蒸散システムを通して浄化し再利用している。

製造した堆肥を大豆や菜種栽培に利用し、大豆は食品加工してその残渣を再び堆肥製造に利用し、菜種から採った食用油は自社直営店で使用した後、回収しBDFを製造(12,000L/年)している。BDFは自社で使用する農機具の燃料として使用している。

また、間伐材、製材所残材（端材）を利用し抑草効果と土壤飛散防止効果に優れた屋上緑化資材の開発も行っている。

堆肥置き場



緑化資材使用例



廃食用油精製機



BDF

